

平成 27年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492800188	事業の開始年月日	平成26年8月1日
		指定年月日	平成26年8月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 なでしこ		
所在地	(〒257-0015) 神奈川県 秦野市 平沢 338-4		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年10月 日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi">http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>私たちのモットーは ご利用者が元気健康で楽しみながら笑顔で過ごして頂く。です。 毎朝、ご利用者も職員も全員が外に出て体操を行い、朝日を浴びて気分をリフレッシュして頂く事から1日がスタート。お食事作りやお掃除、洗濯等はお利用者も職員と一緒に話し合いも弾み、体を動かして頂き健康維持の近道です。プランターにて野菜を作っていて農家出身の方を中心に毎日お手入れをしていて職員も意見を伺いながら勉強をさせて頂いています。買い物や散歩を通じ地域の方々との交流も増えて来ていて、近所の方から野菜を頂いたり、施設で取れたパセリをお分けしたり地域の中でふれあいも楽しんでいます。全てのイベントはご利用者の意見や要望をお聞きし外出行事の行き先や食事内容を考察、企画しています。「自分で選ぶお弁当の会」「居酒屋 なでしこ」等々はお利用者の楽しみになっています。医療面も地域の往診医と訪問看護と連携し早め早めの対応を心がけ開設以来入院者ゼロを継続中です。職員体制も開設以来離職者ゼロを継続し、チームケアにて安定して安心をして頂ける介護を提供させて頂いています。</p>
---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年11月18日	評価機関 評価決定日	平成28年2月16日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、小田急線「渋沢駅」からバスで5分、バス停「中舟道」で下車し徒歩5分の国道246号線から奥まった住宅街に位置している。アパートを改築した木造2階建（一部鉄骨造）1ユニットの事業所であり、一人ひとりの個室はトイレ、洗面所、浴室と部屋が和室を含めて2部屋ある。階段や段差を利用して生活リハビリを実践している。</p> <p><b>【利用者の主体性を尊重した支援を実践している】</b> 利用者が「ここに来てよかった」と思えるような支援を目指し、「利用者が元気に健康で楽しみながら笑顔で過ごす」ことを基本に6項目の理念を作成している。利用者は主体的に調理や掃除、洗濯など職員と一緒にやっている。利用者はすべてのイベントに対して意見や要望を伝え、「自分で選ぶお弁当の会」「居酒屋 なでしこ」など楽しんでいる。毎朝利用者は職員と一緒に外に出て、朝日を浴びて元気に体操をし、健康づくりに努めている。また毎日外に出る事により、避難訓練にもなっている。法人による支援体制と管理者の「共育」の考えで、職員のチームワークが良く、離職率が低く、利用者・家族の信頼と安心につながっている。</p> <p><b>【地域や行政との連携強化を図っている】</b> 開設以来約1年と短期間ではあるが、管理者は地域や行政と密接な連携を図っている。運営推進会議には市の2課の担当者と地域包括支援センター職員、自治会長や近隣の方が参加している。市グループホームフェスティバルに参加して、行政や他の事業所とも連携している。</p> <p><b>【医療機関との連携強化を図っている】</b> 地域の協力医療機関の往診医と訪問看護師と連携し、早期の対応を心掛けており、開設以来入院者ゼロを継続している。協力医の往診が毎週木曜日であり、さらに訪問看護師が毎週来訪し、健康チェックをして利用者の心身の変化を確認し、主治医への受診、報告をしている。協力医と看護師とは24時間連絡が取れる安心な体制になっている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 なでしこ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は玄関に掲示している。職員が常に見ることができ、周知し、実践するよう努力している。	事業所理念は、管理者が開設時に作成したものである。「利用者が笑顔で、家族が安心して、地域から必要とされる」を基本として、6項目からなり、玄関などに掲示して、毎日の引継ぎ時や月2回のケース会議、月1回の全体会議で確認している。管理者は、「統一感」と「5S運動」を推し進め、整理・整頓・清掃・清潔・しつづけを徹底し、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物等で地域との関わりは日々多くなり、地域の一員として位置づいている。	自治会に加入し、地域のお祭りには管理者が参加している。散歩時には近所の方から野菜を頂いたり、事業所のボランティアで作ったパセリをおすそわけすることもある。地域の清掃には職員と利用者が参加して、地域の方と交流を図っている。美容のボランティアが来訪し、化粧の仕方などの講習を受けたこともある。外に出て活動することが多く、利用者は常に体を動かして健康維持に努めている。	v 利用者と職員が協力して、プランターや菜園で花や野菜を作り、農業経験のある利用者が指導している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催や地域行事への参加、日常的な散歩など事業所側から地域に出ることで、理解を得て来ている		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は定期的を開催し地域内の他業種の方も出席して頂き、事業所の取組みやサービス状況を伝え、意見、感想を伺い、次の取組みに生かしている。</p>	<p>2か月に1回開催しており、メンバーは利用者・家族・自治会長・民生委員・市福祉部高齢介護課職員・市福祉部生活福祉課職員・地域包括支援センター職員・前ケアマネジャー・後見人・信用金庫支店長・近隣の方・管理者・事業所職員である。事業報告や意見・要望などを聞いている。前ケアマネジャーから独居で入所を嫌がっている方に対する対応の相談があり、信頼されているヘルパーや後見人、事業所のケアマネジャーなどの協力により、入所に至ったケースがある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には毎回参加して頂き、事業所の方向性と現状をお伝えし理解と協力を得られるように常に取り組んでいる。</p>	<p>秦野市福祉部高齢介護課、秦野市福祉部生活福祉課が窓口で、要介護認定更新申請代行や生活保護の手続きや相談をしている。市居宅介護支援事業所や介護支援専門員協会の研修などに参加している。秦野市グループホームフェスティバルにも参加して、行政や他の事業所と連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については重要事項説明書にも明示している。職員は身体のみならず言葉の拘束も会議や研修を通して充分理解しており行っていない。	身体拘束をしないことを、利用契約書、運営規定に明記している。年1回「高齢者虐待」の研修を実施している。管理者は日常の支援の中で、常に言葉遣いや無視などに注意を払っている。経験豊富な職員が多く、十分理解して行動している。利用者は毎朝の外での体操や日々の生活リハビリで元気に活動している。玄関の施錠はしないで、職員は見守りを重視している。近隣の方とも顔見知りなので、協力体制はできている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルが整備されており遵守している。また虐待につながるようなケアが無いように、管理者、職員間でケア方法をケース会議等で話し合う場を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が成年後見人制度を利用する為に行政に依頼し調整を進めている。さらに新規でご入居された方に成年後見人がついているので職員への理解も並行して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約文を確認しながら納得して頂き、疑問な点はその場で伺うようにしている。また解約、料金の改定についても必ず文書で取り交わしている。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には毎回ご家族が参加。積極的に意見や要望を伺い改善に取り組んでいる。施設内イベントは必ず利用者の意見要望を伺い企画している。	家族の来訪時や運営推進会議で、管理者は意見や要望を聞いている。常に電話連絡をしており、細かな支援の状況を報告している。請求書の送付時に利用者の笑顔の写真を同封している。イベントや誕生日の食事は、要望を聞いて企画を立てている。生活保護の方が5名で、後見人と連絡をとっている。	
----	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月二回のケース会議及び月末の全体会議等を通じ職員の改善提案や意見を積極に取り入れ業務改善に取り組んでいる。無理、無駄、ムラが無い様に職員全員で取り組んでいる。	月2回のケース会議や、毎月の全体会議で、職員の意見や要望を聞いている。毎日職員は仕事に入る前に各種記録を確認し、引き継ぎ時は「連絡帳」「ご利用者ノート」などで情報を職員間で共有している。管理者は朝早く出勤し、職員の意見や要望を聞く時間を作っており、できるものはただちに実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に即した労働環境が整えられている。 処遇面も働きやすい環境づくりに代表者は取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や事業所内研修、外部研修で職員はスキルアップする機会が多くある。 社内での資格支援制度を利用し、資格がより取得し易い制度も設けている。事業所内では管理者が個人の課題について相談、助言し、ケアの質の向上に努めている。		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>秦野市介護支援専門員協会、秦野市グループホーム連絡会に加入し、会が主催する研修に参加、他の事業所と交流し情報を得て、参考にしている。</p>		
----	--	--	---	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず本人と面接している。本人の意向や家族からの生活歴、習慣、趣味などの情報を基に、環境の変化への混乱を軽減できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の問い合わせ、見学、申込みの段階で、入居を考えた経緯、本人の状態、入居した際の心配事などを伺い、事業所の理念や具体的な対応などを伝え、信頼を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の心身の状況を家族、担当ケアマネージャー等からの情報をもとに本人にとって必要なサービスを選択できるように提案や助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生活する」関係づくりは日常生活において管理者、職員共常に心掛けている。利用者のできる事への働きかけも様々な作業やレク等の場面で活用している		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間は設定しているが、契約時に家族の都合に合わせて時間外でも面接可能な事を伝え、家族との時間を大切にしている。また心身状態の変化も家族に伝え、本人にとっても最良のケア、望むケアを家族とともに話し合い実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外友人などの面会は、事前に名前と関係を伺い、面会の許可を家族から頂いている。面会者には居室でお茶を飲みながらゆっくりとした時間を過ごせるように配慮している。友人との電話の取り次ぎや手紙なども行っている。	友人や知人が訪ねて来た際は居室で対応し、お茶の接待をしている。手紙のあて名書きや電話の取り次ぎもしている。家族は毎月1回の来訪があり、近況報告をしている。墓参りや行きつけの美容院などには家族が対応している。利用者が今まで行ってきた野菜作りの指導、料理、編み物、裁縫や創作活動などをこれからも継続できるように職員は支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作りや家事作業、レクリエーションやお茶の時間等に交流が出来る様に配慮している。コミュニケーションが自ら困難な利用者は職員が仲介して利用者同士の交流が図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられて退去された方が1名居られますが、葬儀には職員全員で出席し納骨までお手伝いさせて頂いた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時、利用者、家族から必ず、入居にあたっての生活の意向を伺っている。 認知症等で自己表現の出来ない方は、家族の意向と入居後の利用者の様子等から汲み取るようにしている。	アセスメントや日常の支援の中で、利用者や家族の意見や要望を把握している。言葉の出にくい方には表情や態度から把握しており、家族や前ケアマネジャーから聞くこともある。小田原の「鯛飯」や「お好み焼き」を食べたいとの要望があり対応予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時にCM、家族から生活歴や家族構成などの情報をアセスメント用紙に記入して頂き、入居前の生活、入居に至るまでを職員が把握しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定位時のバイタル測定、食事摂取量、排便状況、睡眠、活気などを観察、記録し日々の関りを通じ把握している。また本人ができる事を引き出しメリハリのある生活を支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護サービス計画書は第一に本人の意向を反映させている。その上に家族の意向や主治医、看護師の意見も加え、その方に必要なサービスを話し合い、介護支援専門員が計画書を作成している。月2回ケース会議を開催し次の計画に反映している。	まずはアセスメントを実施し介護計画書を作成し、月2回のケース会議で見直しをしている。見直しは基本的には3ヶ月ごとであるが、状況に応じてその都度見直している。医師や看護師の意見も取り入れている。介護計画書は家族に分かりやすく作成し、介護記録は、記号を使って簡単に分かりやすく記録され、評価もされている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録にはケアの実践記録や日中の様子、夜勤者、日勤者と情報が途切れる事の無いようにしている。状況や様子に応じて個別記録を作成しケース会議で検討、気づきや工夫を行い、より良いケア実現に活かしている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会性の維持という観点からも事業所内サービスにとらわれず、本人に必要な散髪サービス等は可能な限り取り入れるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント参加や外食行事、散歩でのゴミ広い等、地域住民としての活動ができるように積極的に取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にこれまでの主治医を継続するか、提携医療機関の主治医に変更するかは、本人、家族が選択できるようになっている。 どちらを選択しても随時、相談や助言、速やかな受診ができるように医療機関とは身体状況の情報を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	毎週木曜日に内科・循環器科の協力医の往診があり、多くの利用者が受診している。精神科の協力医もいる。整形外科は管理者が同行し、歯科は家族が対応している。医療情報は「受診報告書」に記入して職員間で共有し、家族には電話で報告している。内科・循環器科の協力医は、日曜祭日24時間対応である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師による健康チェックの際、心身の変化を報告、主治医への伝達もお願いして受診の必要な場合など速やかな対応をしている		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した場合は入院中の様子や経過などの情報を入院先医療機関より得ている。また退院に向けて、メディカルソーシャルワーカーや入院先担当医、家族と状態について話し合いを持ち、本人にとっての最良の方向を決めている。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の指針を作成し、契約時に説明し同意を得ている。基本的に終末期ケアは老衰のみと説明し医療依存度に応じて他施設への移動の協力をお願いし承諾を頂いている。	入所時に「利用者の緊急時や重度化した場合等における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。今までに看取りの経験はなく、研修について管理者が体験を通じて実施している。職員は経験豊富で、看取りについては理解している。協力医は24時間対応可能な体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、マニュアルに沿った研修を行っている。また想定外のことも起こり得るとした、実践に即した訓練を繰り返し行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は消防法で義務付けられている年2回総合訓練を行っている。その他毎朝外で体操を行い利用者、職員全員が外に出る習慣がついている。災害時の備蓄は3日間分を用意している。	年2回避難訓練を実施している。1回は自主訓練で、1回は消防署の立ち合いで実施予定である。地域の総合防災訓練には管理者が参加している。毎朝外に出て体操をしていることが避難訓練になっており、利用者は混乱なく、下駄箱から自身の靴を選んで外に出ている。備蓄は飲料水、非常食、ガスボンベ、懐中電灯、日用品などで3日分備蓄している。	事業所は奥まった住宅地にあり、災害時には地域の方の協力が必要です。夜間を想定した訓練を地域の方の参加により、消防署の指導で実施されることを望みます。運営推進会議には自治会長や近隣の方も参加しているので、会議の課題として検討し、協力をお願いすることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩としての人格を尊重し、何気ない日常会話にも配慮した言葉使いをしている。具体的には会議で議題に上げ職員全員で改善に取り組んでいる。	人格の尊重やプライバシーに配慮した職員の言動は日々の支援の中で管理者が指導し、会議で確認している。生活歴は職員間で共有し、家族からも話を聞いて本人理解に努めている。利用者を「さん」づけで呼び、言葉遣いには特に注意している。トイレ誘導の声かけはさりげなく、周囲にわからないようにしている。個人情報の記入された書類は事務所の鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人一人が利用者とのコミュニケーションを大切にしており、利用者が伝えたいことをくみ取れる関係作りを心がけている。イベント等は利用者の希望を取り入れ、意見を伺う時は選択出来る様な聞き方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日課の中では、食事、10時の体操、3時のお茶が決まっている時間である。その他はいつでもお茶や紅茶など飲める環境である。本人の生活ペースを基本とし、ゆっくりとした日常がおくられるように支援している。		



39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身だしなみには特に配慮し、食後食べこぼしなどで汚れたままではないようにその都度着替えをしている。衣服はご家族と連携し用意して頂いている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は味、見た目、食材バランスなどを考慮し、「家庭的な食事」が自慢である。準備から片付けまで、安全を確保した上で職員と一緒に作業をしている。</p>	<p>食材は配食業者を利用している。配食業者の献立に沿って職員と利用者が一緒に調理している。テーブルふき、盛り付け、配膳、後片付け、食器洗い、食器ふきなども一緒に行っている。毎月回転ずしや、和食レストランなどに出かけたり、すしの出前をとることもある。正月やクリスマスにおせちやケーキ作りなどをして、「自分で選ぶお弁当の会」や「居酒屋なでしこ」などの企画を楽しんでいる。きざみやとろみ食にも対応している。食事中はテレビを消して、有線の音楽を流し、ゆったりと食事ができるように配慮している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度記録し不足にならないようにしている。利用者個々の咀嚼、嚥下状態により、量や形状を変えている。特に水分については、お茶、お水が不足気味な場合は、本人の好みに応じてコーヒーやジュースなど家族や医師の了解を得て対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行っている。口腔内に問題が生じた場合は、家族に報告後、外来受診等の対応をお願いしご家族様も介護に参加して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	紙パンツやオムツは極力使用しない方向である。日中についてはトイレ誘導できる方は綿パンツにパット使用とし、夜間失禁の多い方は紙パンツ使用としている。いずれにしてもトイレでの排泄を基本とし、使用については、本人の排泄の記録などから、必要かどうかを充分カンファレンスし状況に応じて対応している。	トイレ誘導は、排泄パターンを把握し、声かけをして自立を促している。夜間は紙おむつであるが、日中は布パンツとパットの使用で、トイレ誘導して自立を促すまでに回復した方がいる。毎月のオムツの費用が削減されて、家族に感謝されている。居室にトイレがあるために夜間は利用者が自身で対応できる環境にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は十分な水分摂取、毎日の野外での体操、散歩や活動、適度な乳製品の摂食、バランスの取れたお食事摂取等と状況に応じた医療との連携を常に職員間で意識して取り組んでいる。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は週2回確保で来るように不定期に行っている。基本は午前中には午前中だがその方に合わせて午後に行ったり、また入浴のない日でも、必要な利用者には足浴、シャワー浴、清拭など個々に合わせた衛生状態が保てるように支援している。</p>	<p>週2回の午前中の入浴を基本としているが、要望にはできる限り対応している。男性が1階の大きな浴室を利用し、女性は居室の浴室を利用している。希望に応じて同性介助をしている。入浴を好まない方には、声かけや、時間をずらしたり、人を変えたり工夫をしている。体調に応じて、シャワー浴や足浴、清拭で対応することもある。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床は、生活習慣を大切にしながら声かけをしている。日中は適度な活動を入れ、夜間安眠につながるようしている。昼寝については夜間の睡眠に影響のない程度にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については医師の指示通りに介助している。添付されている説明書を確認し、禁止食品や副作用なども周知するようしている。症状の変化には看護師や医師に必ず報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての家事、作業は利用者と共にいき利用者同士が生活の中で自然に役割感をもって行っている。生活にメリハリを持って頂くために、特技や好きな事を活かして頂く為に家庭菜園や庭仕事は利用者の意見を伺いながら行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外への散歩は天候が良ければほぼ毎日実施して、気分転換を図っている。毎月の外出行事を利用者と企画している。利用者がなじみの場所を希望した場合は、家族に協力を頂いている。	利用者全員が毎朝外に出て、日光を浴びて体操をしている。継続することが大切で、開設以来入院者ゼロを維持しており利用者の自信につながっている。車いすの方も一緒に、近所のスーパーやコンビニに買い物に行ったり、近くを散歩している。個別の外出支援についてもできる限り対応している。法人の車で秦野市の県立戸川公園、市内の花見や出雲大社、ヤビツ峠などに出掛けることもある。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については契約時に家族と十分に話し合い対応している。		
----	--	---	------------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は交信できるように取り次いでいる。手紙や年賀状は、必要に応じて代読し、分かり易く利用者へ伝えている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内は整理整頓を心がけ、安全が確保出来る様に配慮している。手作り作品を飾ったり生花クラブでの生花、季節の装飾を飾るなどして季節を感じて頂き心地よく過ごして頂ける様に配慮している。	事業所の周りにはプランターや菜園があり、玄関には利用者が生けた花や作品が飾られて季節感がある。事業所内には有線の音楽が流れている。アパートを改築した事業所で、段差があるが、利用者は生活リハビリとして有効活用している。職員と利用者が毎日清掃しており、清潔になっている。1階には大きな浴室と、車椅子対応のトイレがあり、廊下は広くゆったりしている。	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓や席は必要に応じて配置を替えて、誰もが居心地のよいように配慮している。外や2階廊下にも椅子を置きのんびりと過ごせるように配慮をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は家族と相談の上、利用者の希望の備品を持ち込んでいる。職員は毎日居室の清潔と事故になり得る配置ではないかなどを確認している。</p>	<p>居室はアパートを改築したため、一人ひとりの空間はゆったりとしていて、和室を含む2部屋と洗面所、トイレ、浴室があり、ベット、照明、エアコン、カーテンが備え付けられている。利用者は火器や危険なもの以外自由にテレビやタンス、家族の写真など持ち込んでいる。清掃は職員と利用者が一緒にしている。季節の衣服の入れ替えは家族が主に対応している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している</p>	<p>各居室や廊下、階段にも段差が存在し危険がいっぱいの建物であるが、逆にその事が刺激になりADLの維持が出来る。毎日全員が施設の外に出て体操や作業、散歩や買い物を行って頂き自立した生活を送れるように支援している。</p>		



目 標 達 成 計 画

事業所名

花物語 なでしこ

作成日

平成28年 2月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の地域での協力体制が未構築。	地域の方々と災害時の協力体制の構築。	運営推進会議等を活用し防災訓練に参加して頂きたいとご協力をお願いして行く。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。